

# わ ら (なわない) (講師依頼可)

国立花山青少年自然の家

## 1 活動の概要等

日本人は、昔から米を作りそれを食べてきました。種をまき、育て、米を収穫する、そこで脱穀されたわらを工夫して、いろいろなところで使ってきました。わらにふれてみると、ごわごわしていますが、わら布団や雨や雪から身を守る衣服等、工夫しながら生活に生かしてきました。

その一つがなわです。弱い一本のわらを数本使って人の手でよりあわせることによって、丈夫で有効な道具に生まれ変わります。そこで、なわないを通して人間の知恵と出会い、昔の日本人の心にふれる機会をもつことを考えました。

また、わらをいろいろな角度からとらえてみることで、より深い活動にしていきたいと思います。

## 2 活動場所等

ピロティ クラフト室

## 3 時間

2～3時間

## 4 準備

青少年自然の家で貸し出しできる物	利用者が準備する物
わら打ち道具（台、わら打ちシート）	わら（売店で購入できます。要予約）

# なわない活動の手順



1. ワラをそろえて、ふくを取りのぞく。

ふくとは、ハカマとも言い、ワラの一番下についている葉っぱのこと。手で取ったり、「わらすぐい」を使って取る。



「わらすぐい」という道具  
にきぎがついている

手で取ってもよい



くぎに引っかけ… 引っぱると… ふくが取れる



2. ワラを束ねて、水をつける。

水分を十分にしみこませることにより、ワラの強度が上がる。



3. ワラを打つ。

ちぎれにくくなるように、節が多い根元と、ややがたい先の部分を念入りにたたく。

「木づち」 →

「木の台」 →



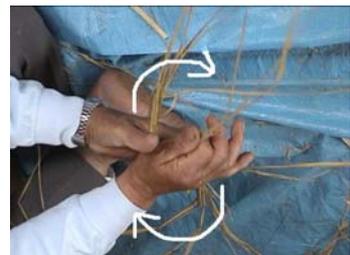


#### 4. なわをなう。

ワラ散本を束にして、2つ持つ。それぞれを手のひらでねじりながら前に押し出す。2つの束をねじって入れかえる。と中でワラを足しながらくり返す。1度に1~2本ずつ足す。



2つの束をこう持って それぞれをねじりながら 前に押し出す。



左右の手でそれぞれの 束をにぎって 時計回りに入れかえる。



入れかえたら、最初にもどる。